

## 展望 2021 - 道路舗装・3 / 日本道路・久松博三社長 / 元請受注に注力



久松博三社長

昨年は期首時点で手持ち工事が積み上がった状態でスタートで来た。新型コロナウイルスの感染拡大が業績に与える影響を懸念したが、豊富な手持ち工事をスムーズに消化できたことで、結果的に2020年4～9月期業績予想の上方修正につながられた。製造部門もアスファルト合材の製造量は前年以上を確保できている状況だ。

21年度から5カ年の国土強靱化事業の延長が閣議決定された。官庁工事はある程度の工事量の発注が見込めるだろう。21年度は官庁工事、民間工事ともに元請としての直接受注に努めて手持ち工事量を確保していく。手持ち工事を減らさずに現場をスムーズに動かしていくことが今後のポイントになるだろう。

海外は新型コロナでロックダウン（都市封鎖）した国もあり、業績への影響が大きく苦戦している。建設プロジェクトの中断などで新規受注が取れていない状態だ。感染状況を注視しつつ、今年も引き続きタイ、マレーシアを中心に自動車テストコース、空港滑走路などの付加価値が高い案件の受注に注力する。

今年はスポーツ関連工事など、純民間工事の受注拡大を図る。スポーツ関連ではランナー向けの独自の舗装「快適歩走」などを展開しており、これをさらに推し進めたい。スポーツ施設の運営会社など、スポーツに関連した企業とのM&A（企業合併・買収）を含めたアライアンスを探っていく。

記事ID : 3202101070203